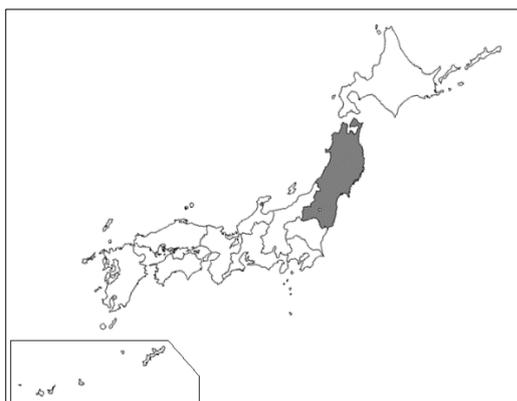


(2) 東北



東北地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は弱含んでいる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

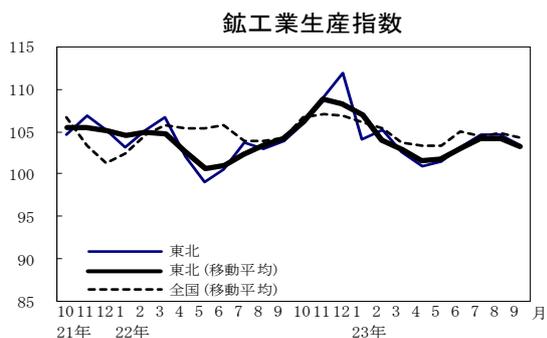
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年9月)	今回 (令和5年11月)	
鉱工業生産	持ち直しの動きに足踏みがみられる	弱含んでいる	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は弱含んでいる。

7-9月期の鉱工業生産は、前期比3.5%減となった。月別にみると、7月は輸送機械が減少したこと等により前月比1.5%減、8月は食料品が減少したこと等により同1.6%減、9月は電子部品・デバイスが減少したこと等により同0.3%減となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4-6 月期	7-9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	15.3	14.0	0.4	▲2.4	3.9	▲6.2
食料品	11.0	0.3	10.2	17.6	▲11.1	17.8
化学・石油製品	9.1	▲4.0	▲5.5	5.4	▲2.8	▲4.4
輸送機械	7.9	22.2	▲16.8	▲22.9	▲3.4	6.4
生産用機械	6.7	▲7.0	▲13.7	▲16.5	▲10.8	16.8
鉱工業	100.0	2.4	▲3.5	▲1.5	▲1.6	▲0.3

(備考) 1. 2015年=100 (全国は2020年=100)、季節調整値。
東北の最新月は速報値。
2. 全国及び東北の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7-9月期、9月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は緩やかに持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

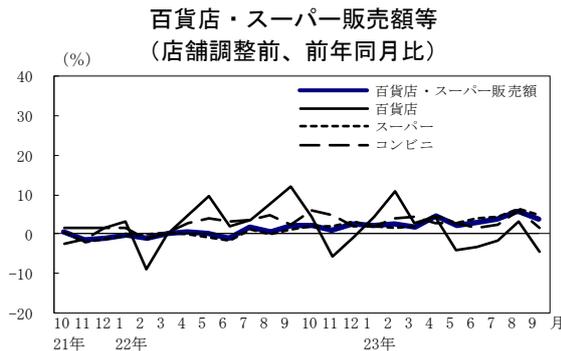
7－9月期は前期比1.5%減となった。月別にみると、7月は前月比0.1%減、8月は同0.4%増、9月は同0.9%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、7－9月期は前年同期比4.4%増となった。月別にみると、7月は前年同月比3.6%増、8月は同5.9%増、9月は同3.7%増となった。

百貨店は、7－9月期は前年同期比1.2%減となった。

スーパーは、7－9月期は同5.1%増となった。

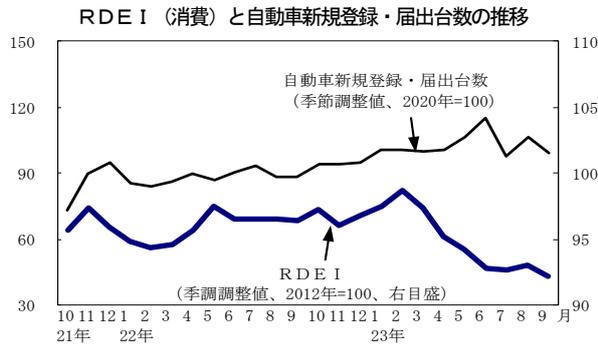


	2023年7-9月	2023年7月	8月	9月
RDEI（消費*1）	▲1.5	▲0.1	0.4	▲0.9
百貨店・スーパー(*2)	4.4	3.6	5.9	3.7
百貨店(*2)	▲1.2	▲1.8	3.1	▲4.6
スーパー(*2)	5.1	4.3	6.2	4.7
コンビニ(*2)	3.3	2.4	5.9	1.4
乗用車(*3)	11.1	4.3	20.2	10.9
(季節調整値)(*3)	▲5.8	▲15.3	9.2	▲6.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

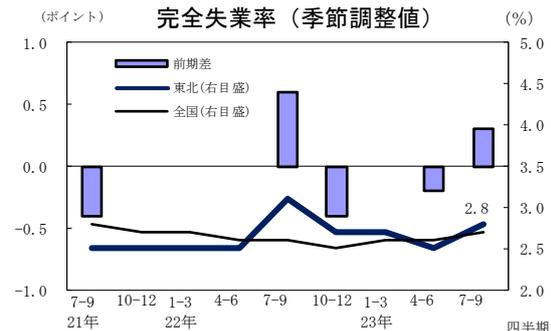
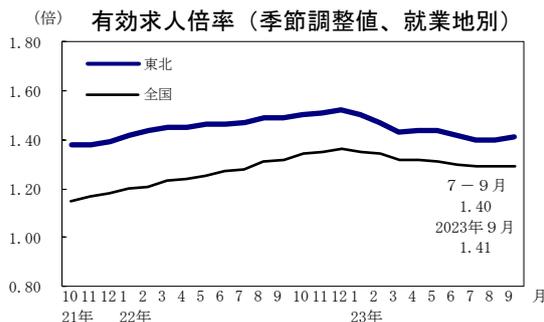
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はこのところおおむね横ばいとなっており、前回の景気循環の平均的な水準にある（P10 参照）。一般労働者の定期給与は上昇している（P10 参照）。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年10月調査）景気判断理由の概要

2. 東北

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・気温が下がり秋らしい気候になったことで、ようやく秋物の動きが活発になっている。ただし、重衣料等先物買いは鈍い状況が続いている（百貨店）。
		○	・観光需要の増加が景気全体を押し上げている印象を受ける。家電製品も単価が上がっており、売上は前年並みである。客も物価が上がっていることを諦めている。買換え需要は底堅い（家電量販店）。
		▲	・来客数、客単価はさほどではないが買上点数が減少している。物価が上昇しているため売上は落ちていないように見える。客は満足していない様子である（コンビニ）。
	企業 動向 関連	□	・半導体関連の特にメモリ関係の顧客において、設備投資意欲がみられない状況が続いている（電気機械器具製造業）。
		○	・9月以降、イベントの再開、選挙、学校の周年事業などが集中しており、受注が増えている（出版・印刷・同関連産業）。
		▲	・客先からの引き合いが減少し、それに伴って受注も減少している。2～3か月前より動きが悪くなっている（輸送用機械器具製造業）。
	雇用 関連	□	・大手企業中心にコロナ禍で採用を抑えてきたことの反動による増員募集は一区切りがついた印象を受ける。採用要件で即戦力を求める求人の数が増加している。結果的に書類選考通過率などが低下している（人材派遣会社）。
		▲	・求人数の減少傾向が続いている（職業安定所）。
	その他の特徴 コメント		○：法人関係では防寒着の売上が好調である。特に洋上風力発電関連の企業や警備会社、工事関連が順調である。しかし、仕入価格の上昇が続いており、利益が減少している（衣料品専門店）。 □：酒税法改正に伴う値上げによる大きな影響はない。道の駅など観光施設での販売量はインバウンドも含め良い状態が続いている。ただし、飲食店への販売量は、時期的なこともあり良くない（一般小売店 [酒]）。
	先行き	家計 動向 関連	□
▲			・物価上昇により、生活防衛意識や節約志向が強まり、消費は緩やかに減少へ向かうとみている（スーパー）。
企業 動向 関連		□	・半導体設備向け部品の見込み回復情報があったが、一転して計画が後ろ倒しとなっている。回復までにはまだ時間が掛かるとみている（一般機械器具製造業）。
		▲	・年度末を見据えて交渉がまとまる案件が出てくるため、若干上向く可能性がある（建設業）。 ・今夏までは店舗へ足を運ぶ客が多く、売上は伸びていたが、この先、前年の全国旅行支援のような特需が見込めないため、駅周辺の店舗を中心に苦戦するとみている。団体客の取り込みや通販の施策を打ってカバーしていく（食料品製造業）。
雇用 関連		□	・飲食・宿泊業における旺盛な求人活動は、当面継続するとみている（職業安定所）。
その他の特徴 コメント			○：物価高騰とはいえ、政府方針の賃上げや減税の期待感から、年末に向かって消費行動が多少高まるとみている（美容室）。 □：暖冬の長期予報が出ており、配達灯油の伸びは余り期待できない（その他専門店 [ガソリンスタンド]）。

(D I) 現状・先行き判断D I（東北）の推移（季節調整値）

